

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2年 6月16日現在

機関番号：14403

研究種目：奨励研究

研究期間：2019

課題番号：19H00094

研究課題名：国語科におけるプロジェクト型学習の年間カリキュラムと評価方法の開発に関する研究

研究代表者

福西 昌平 (FIKUNISHI, Shohei)

大阪教育大学附属天王寺中学校・教諭

交付決定額（研究期間全体）（直接経費）：540,000 円

研究成果の概要：

国語科におけるプロジェクト型学習の有用性とその評価方法の開発を行った。従来の国語科の学習（例えば、教科書掲載の文章の読解）よりもプロジェクト型学習を取り入れることで、学習内容が有機的につなげることができ、学習者の主体性を育み、資質や能力の伸長を図ることができた。

また、その学習成果を見とる方法として、学習振り返りレポートの作成を行なった。今後、こうしたレポートをポートフォリオとして整理していくことが有用であることが示唆される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

プロジェクト型学習は、アクティブラーニングの一つの形態として近年、盛んに研究が進められ、実践が行われている。本研究は、中学校の国語科におけるプロジェクト型学習とその評価方法の開発を目指したものである。こうした実践は、平成29年告示の学習指導要領で求められる資質・能力の育成に資するものである。とくに、他者と協働して課題を解決する力や自らの学びを客観視し、主体的に学んでいく力を育むモデルを開発したことで、今後の教科教育におけるプロジェクト学習の推進が期待される。

研究分野：教育学

キーワード：プロジェクト学習 ポートフォリオ

1. 研究の目的

本研究の目的は、年間を通して取り組むプロジェクト型学習の教材とその方法を開発することである。国語科におけるアクティブラーニングとして、例えば、街にあふれている広告ポスターを非連続型テキストの読解・表現の教材とし、ポスター作りを行ったり、何らかの商品や観光地のPRをするというプロジェクトを設定し、取材やプレゼンテーションを行ったりする実践がある。しかし、中学校の国語科教育においては、こうした学習はしばしば他の単元との関連性が薄く、連続的で系統立った指導計画に位置付けられていないことがある。

本研究はこうした背景を踏まえ、年間を通して一つのプロジェクトを設定し、それを構成する小さなプロジェクトに段階的に取り組めるカリキュラムを開発する。学習者自らが企画・運営し、また検証していく過程において、言語技術や社会スキルを獲得していくことを狙いとする。

また同時に、こうした大掛かりなプロジェクト型学習が学習者の国語に関する関心・意欲にどのように影響し、またどのようなコンピテンシーの獲得が図れるか、その評価方法を開発することも目的である。

2. 研究成果

(1) 小プロジェクトの設定とその学習効果

本研究では大きなプロジェクトとして「写真展」の開催を掲げた。その下位に小さなプロジェクトをいくつか設け、大きなプロジェクトを達成しようという動機付けである。プロジェクトでは、一貫して「目的達成型スピーチ」「合意形成を目指す建設的な議論」「内容と意図が明確に伝わる報告」という活動を設け、コンピテンシーの獲得を図った。以下は実践の概略図である。

を越えた学習課題となることが多い。本研究の場合、主軸を国語科におき、他教科と連携を図り、学習を企画することができたといえる。

(3) 今後の展望

(1) でも述べたように、学習の振り返りの質的向上を図るには、生徒にとって目標-評価が明確であることや、過程-成果のメタ認知が重要である。これらを充実させていくにはルーブリックの常用や学習履歴の記録が有用であることは明らかである。また、本研究ではプロジェクトごとにレポートを設けたが、それらを精選したポートフォリオの作成に対して、高い学習効果の可能性が見出された。今後は、こうしたプロジェクト学習と他教科との繋がりや学習履歴の記録、ポートフォリオの導入などの実践的な研究を期待したい。

3. 主な発表論文等

なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。